

コロナとの共生の時代における 分析化学の果たす役割

<趣旨説明>

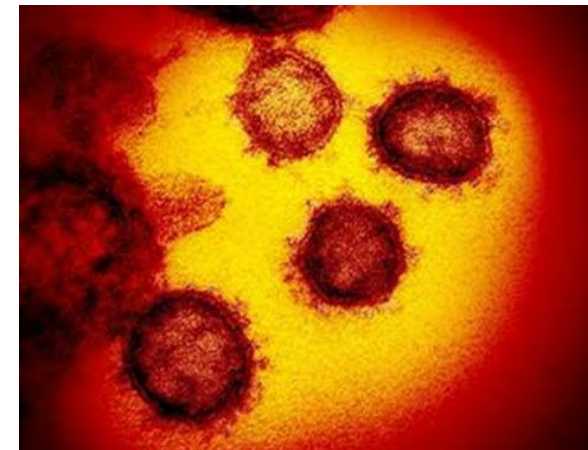
日本製鉄株式会社

齋藤公児

日本学術会議連携会員

●COVID-19が社会に与えた影響は多方面に渡る

分析化学の関わる広い分野も例外ではなく、様々な影響があり、例えば大学でのオンライン授業、企業でのテレワークの重要性(効率化、働き方改革)はそれが実践され、根付かせることの契機となり、また研究所のスマート化や実際の分析のためのオンラインでの試料のやり取りやオンラインでの立会い、更にデータの共有化の在り方等、様々な影響がある。こういった流れは今までの分析化学の関わり方を抜本的に変えてしまう可能性が高い。同時に日本でまた分析化学の分野において、今までのICTの遅れを取り戻す良い機会ともいえる「災い転じて福となす」タイミングととらえることもできる。このコロナの時代だからこそ可能なことと可能でないことをきちんときちんと認識していくことが大事であり、そういった観点から、今後分析化学の果たす役割を皆で議論し、新たな視点を提言する場としたい。



＜プログラム＞

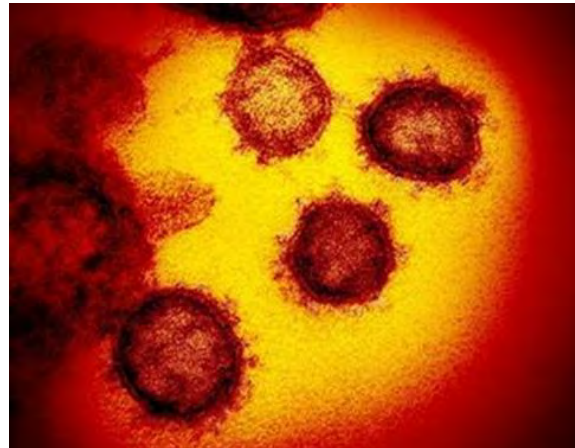
- 13:10 講演 1
救急現場の最前線からみたCOVID-19
一救命のために今後何が必要かー
竹内 一郎 横浜市大救急医学教室 主任教授
- 13:40 講演 2
ポストコロナ時代の分析機器メーカーとしての
目指すべき方向性
杉沢 寿志 一般社団法人日本分析機器工業会 技術委員長
- 14:10 講演 3
AI駆動型実験ロボットによる科学研究の加速
夏目 徹 産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門
首席研究員

- 14:55 講演 4
新型コロナウイルス検出法の開発と
迅速分析体制の構築
四方 正光 株式会社島津製作所 分析計測事業部
グループ長

- 15:25 講演 5
下水モニタリングによる新型コロナウイルス
の流行検知
本多 了 金沢大学 准教授

- 16:00 パネルディスカッション
「分析化学的にコロナを考える:
その果たす役割 新しい計測法とは」
ファシリテーター
玉田 薫 九州大学先導物質化学研究所 主幹教授
日本学会会議員

パネラー
竹内 一郎
杉沢 寿志
夏目 徹
四方 正光
本多 了



<各ご講演の狙い>

1. 竹内 一郎先生 横浜市大救急医学教室 主任教授

→ 今回のフォーラムの主題であるコロナに関して、国内でも第一人者であり、横浜港に入った客船での対応の陣頭指揮だけでなく、特に救急医療体制をいち早く確立したことで、TV等で取り上げられている先生であるため、まずはコロナの全体感をご講演いただく予定。

2. 杉沢 寿志先生 一般社団法人日本分析機器工業会 技術委員長

→ コロナが分析機器会社にどのような影響を与え、それに対して新たな取り組みがどのように展開をしているかをご講演いただきたいと分析機器工業会に依頼し、それらの課題をご講演いただく予定。

3. 夏目 徹先生 産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門 首席研究員

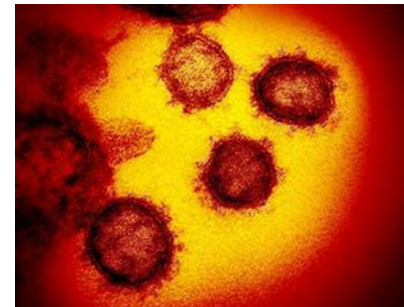
→ コロナの対応で、今までの全く異なる分析の対応の中で、重要なのは人手を介さない自動化であり、その分野の第一人者の夏目先生にその展望をご講演いただく予定。

4. 四方 正光先生 株式会社島津製作所 分析計測事業部 グループ長

→ コロナの迅速分析法に関して、いち早く会社として取り組んでいることが各種報道でも紹介されており、今後の分析法の新たな在り方も含めてご講演いただく予定。

5. 本多 了先生 金沢大学 准教授

→ コロナ感染のマクロ的な状況をいち早くかつ全体感を把握する新たな試みを開発し、NHKでも取り上げられた技術で、従来の個別試料対応とは全く異なるアプローチで、感染の状況の早期全体把握の視点からご講演をいただく予定。



＜パネルディスカッションの狙い＞

「分析化学的にコロナを考える： その果たす役割 新しい計測法とは」

ファシリテーター 玉田 薫 九州大学先端物質化学研究所 主幹教授
日本学会議会員

- ・コロナ救急の現場での知見からどのような診断技術が必要か
 - ・コロナに役立つ分析法やJST未来事業などの先端研究知見からのご意見
 - ・自動化技術の進展の対コロナへの直接的及び未来的貢献
 - ・新型コロナウイルスPCR検査キットの今後と分析化学との関わり
 - ・下水(環境)を活用した疫学調査の今後と分析化学との関わり
- 等々に関して、議論を深めていただく予定

